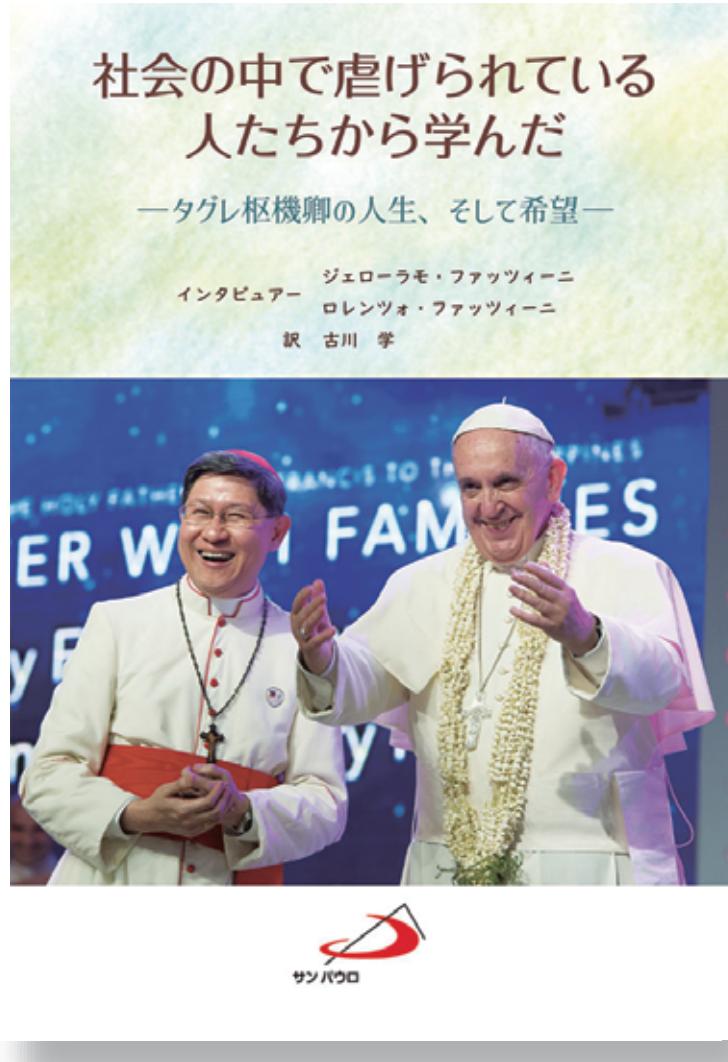


4月27日(水)発売予定

サンパウロ 新刊案内



社会の中で虐げられている 人たちから学んだ

—タグレ枢機卿の人生、そして希望—

インタビュアー ジエローラモ・ファッティーニ
ロレンツォ・ファッティーニ 訳 古川 学

教皇フランシスコが選出された2013年のコンクラーベ（教皇選挙）によって、世界中にその名が知られるようになったタグレ枢機卿。彼の話は、なぜ人の心を打つのか。彼は、車も持たず、人に会うためにバスで外出し、華美な服装を求めず、ごく普通の平服を好む。本書は、教皇フランシスコのスタイルに最も近い枢機卿と言われ、現ローマ教皇庁福音宣教省長官を務めるルイス・アントニオ・ゴキム・タグレ枢機卿になされたインタビュー記事である。

ルイス・アントニオ・ゴキム・タグレ
1957年生まれ。
枢機卿、教皇庁福音宣教省長官、教皇庁立ウルバノ大学総長、前マニラ大司教。
著名な神学者で元国際神学委員会のメンバー。
国際カリタス総裁、カトリック聖書連盟総裁。

訳者
古川 学 (ふるかわ まなぶ)
翻訳家、声楽家、公認心理師。
東京藝術大学音楽学部卒業。
エリザベト音楽大学大学院修了。
元エリザベト音楽大学講師。
訳書『教皇フランシスコに聞く
召命の力—今日の奉獻生活』

インタビュアー
ジエローラモ・ファッティーニ
ジャーナリスト。Credere (『クレーデレ』) 誌
およびJesus (『イエズス』) 誌 (ともにイタリア・
サンパウロ) の経営顧問で Avvenire (『アヴェニーレ』) 誌の論説委員。著書多数。

ロレンツォ・ファッティーニ
ジャーナリスト。Editrice missionaria italiana
(=Emi イタリア宣教出版社) 編集長。